

高子二十境

漢詩と墨絵を楽しんで

高子沼を楽しむ会

熊阪霸陵（1709年～1764年）

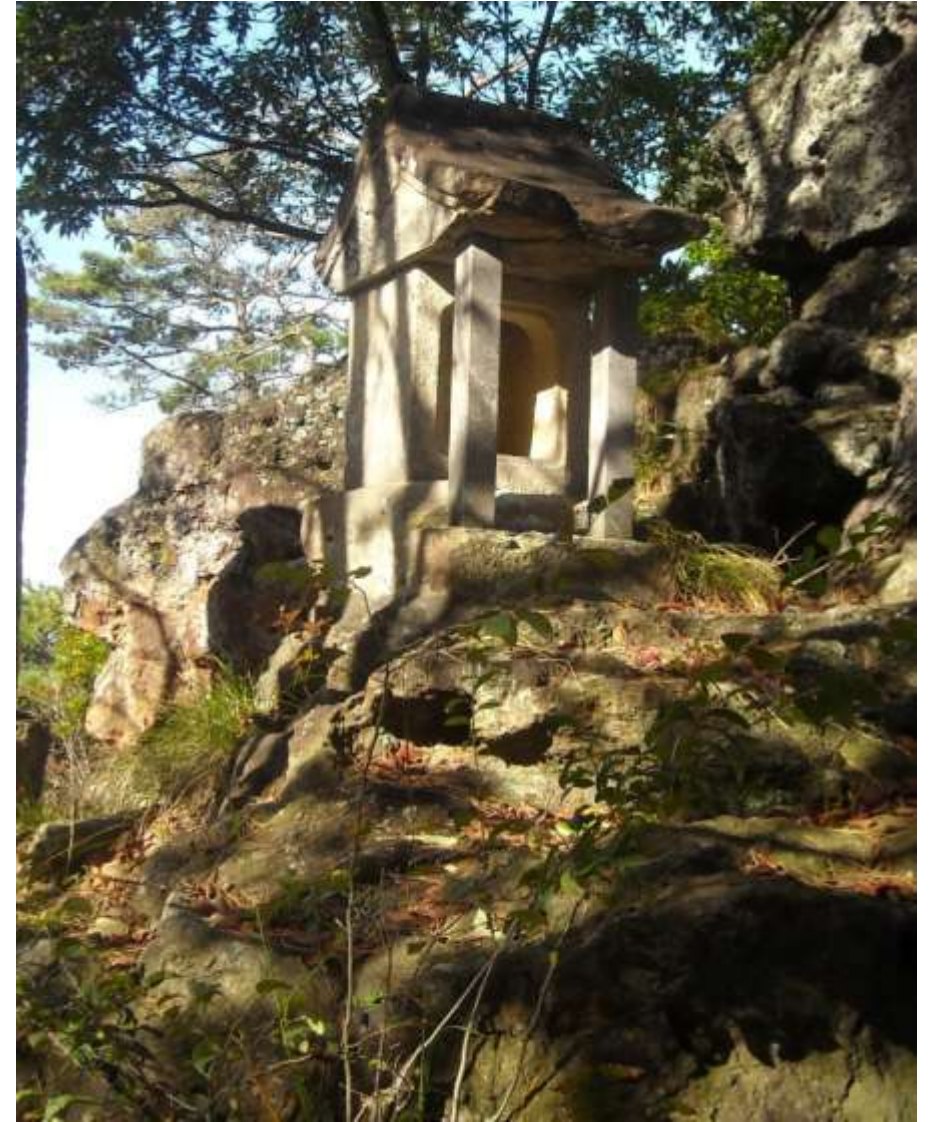
- ・江戸中期、伊達市上保原の高子に生きた豪農で高子熊阪家の祖。
高子熊阪家の持高・・・110石を超える
（田畑・・・高子村 上保原村 箱崎村 高成田村 飯坂村）
- ・近隣の村の門人が通う学問所「白雲館」を主宰する文人・漢詩文学者。
子の台州、孫の盤谷の時代には、蔵書が1万冊を超える

⇒晩年、詩仏・王維の網川二十景に倣い、高子の二十境を詠う
- ・村の窮乏を救済する人徳者。
飢饉の救済の功績で、苗字帯刀が許される
熊阪家は「積善の家」ともいわれ、死後は「熊阪神」として祀られる

祀られる熊阪家の祠



伊達神社(保原柱沢)の熊阪神の碑



岩谷霊窟(白雲洞)の台州大明神の祠

熊坂家三代・霸陵 台州 盤谷の墓碑

伊達市指定文化財（史跡）



熊坂霸陵・台州・盤谷墓碑

（まがはらぶらたいていざんぼんぐん）

平成四年二月一日指定 伊達市教育委員会

熊坂霸陵・台州・盤谷は、江戸時代中期から後期にかけて活躍した保原町の3代にわたる篤農家で、儒学者・詩人として信達地方に大きな足跡を残している。熊坂3代は、宝暦・明和から文化・文政（一八世紀後半～一九世紀初め）にかけて、特に漢詩文の文学活動で県北一円の知識人たちに名声をとどろかせている。

江戸時代中期の享保年間。熊坂霸陵（一七〇九～一七六四）は結婚と同時に保原の中村からこの高子地区に移り住み、桃源郷といわれた「高子二十境」に「白雲館」を創始して多くの門弟を集めた。その子台州（一七三九～一八〇三）・孫の盤谷（一七六七～一八三〇）も「白雲館社」の盟主として多くの門弟を集め優れた人物を輩出している。

白雲館社とは、高子熊坂家の居室の号で、楼を「明月楼」、書庫を「曳尾堂」門弟が集う場所を「洗心室」、庭を「海左園」と称する座敷の総称で、江戸や全国の文人階級と盛んな交流があった。



▲白雲館の屋敷図



▲熊坂盤谷の書

一般に漢詩文は、近世の「支配階級」や「知識階級」の者だけの文化活動として行われていたものであった。この時代に非武士階級の者たちが白雲館で文学活動を展開していたことは、特異なことであったと考えられる。台州・盤谷は儒学者として大成し、特に台州は「信達歌」「文章諸論」「白雲館九日集詩」などの著作を残している。また、天明・天保の飢饉に際し困窮する多くの人々を救ったことも伝えられている。

この熊坂家三代の墓碑は門弟たちにより建立されたもので、それぞれの業績が刻まれ功績を今に伝えている。

伊達市教育委員会

○熊阪家墓所



熊阪霸陵・台州・盤谷など熊阪家の墓碑が並ぶ



使用人のお墓



熊阪霸陵の墓碣



台州の墓碣



頼山陽による碑文の碑



辞世の句が刻まれた夫人の墓碑

覇陵の白雲館の漢詩文学活動

中村熊阪家の義父熊阪助利(豪商・梁川藩の御用達・半田銀山の両替商)のもとで朱子学・宋詩を学ぶ。

(「修己知人」の武士の教えを修得 官吏の世界を詠う教養としての漢詩の素養)

農業経営者、蚕種養蚕業への投資家、桑折代官所の業務の担い手として信達の有力者として生きる。



荻生徂徠の古文辞学、盛唐の自然詩人・王維との出会い



藩政を担う修己知人の武士のように生きようとする自分を否定し、家業を子の台州に譲り、自宅を「白雲館」と号し、仙境の高子で生きる。

高子を王維の別荘「網川」に見立て、美しい景観を足を止めては、漢詩に詠う。

王維の「送別」の詩

下馬飲君酒 問君何処之 君言不得意 歸臥南山陲 但去莫復問 白雲無盡時

永慕編(父・覇陵の追悼集)の自費出版

○熊阪覇陵は高子二十境で漢詩(五言絶句)を詠む。子の台州、孫の盤谷も唱和する。
・・・父子三代で60題の漢詩

○台州は、父覇陵亡き後、父を慕い、この60の漢詩に、南画の大家となる谷文晁の墨絵を付けて、永慕編を編集する。

○1788年、この漢詩集を江戸の藻雅堂から自費出版する。

○全国広く、知識人等に贈り、評価を求めるとともに、漢詩を寄稿するよう呼びかける。
投稿された漢詩を、永慕後編として出版する。

- ⇒ 地方の非武士階級の熊阪家の学識の高さ
- ⇒ 地方から中央の文壇に打って出る高き誇り・・・多くの中央の文化人との交流
- ⇒ 親子三代に渡っての儒学者、漢詩文学者としての活躍の凄さ

高子二十境

江戸中期、高子の熊阪・覇陵・台州・盤谷が漢詩に詠った20の景勝地

● 古樵丘	● 白雲洞	● 愚公谷	● 禹父山	● 雫山	● 白鷺峰	● 走馬嶺	● 返照原	● 拾翠崖	● 不羈坳	● 高子陂	● 隠泉	● 狸首岡	● 将歸阪	● 歸雲窟	● 採芝崖	● 龍脊巖	● 長嘯嶺	● 玉兔巖	● 丹露盤
こしょうきゆう	はくうんどう	ぐこうこく	うふざん	うざん	はくろほう	そうまれい	へんしょうげん	じゅうすいがい	ふきおう	こうしひ	いんせん	りしゅこう	しょうきはん	きうんくつ	さいしがい	りゅうせきがん	ちようしょうれい	ぎよくとがん	たんろばん

高子の景観



阿武隈急行高子駅



里山に囲まれ、広がるぶどう畑





字長嘯嶺



返照原



箱崎からの丹露盤



禹父山

(1) 丹露盤 [伊達氏発祥の地・高子岡城跡]



一入青山路 幽徑接巒岼 每發紫霞興 幾過丹露盤

亀岡八幡宮



高子岡城跡



丹露盤の断崖絶壁

霸陵

丹巖高くして突兀
沆瀣雲に滴りて寒し
借問す孤標の勢い
承露盤に如何ん

台州

亭亭たり丹露盤

紫巖高きこと百丈

上に雲表の露有り

金狄の掌に譲らず

盤谷

一たび青山の路に入れば

幽徑巔岬に接す

紫霞の興を發する毎に

幾たびか過ぎる丹露盤

○丹露盤



(2) 白雲洞



岩谷霊窟ともいわれる名勝地

参道に並ぶ庚申塚



白雲洞の薬師如来



○白雲洞



霸陵

高臥す白雲洞
閑眠落暉に対す
還らんと欲して洞口に出ずれば
忽ち見る白雲の飛ぶを

台州

朝に見る白雲の迎うるを
暮れに見る白雲を送るを
朝暮、白雲あり
余將に此の洞に老いんとす

盤谷

独歩す幽洞の辺り
山中秋色の夕べ
丹楓遊子に媚び
白雲過客を留む

(3) 高子陂（高子沼）



伊達政宗の高子沼伝説も



○高子陂



(4) 走馬嶺



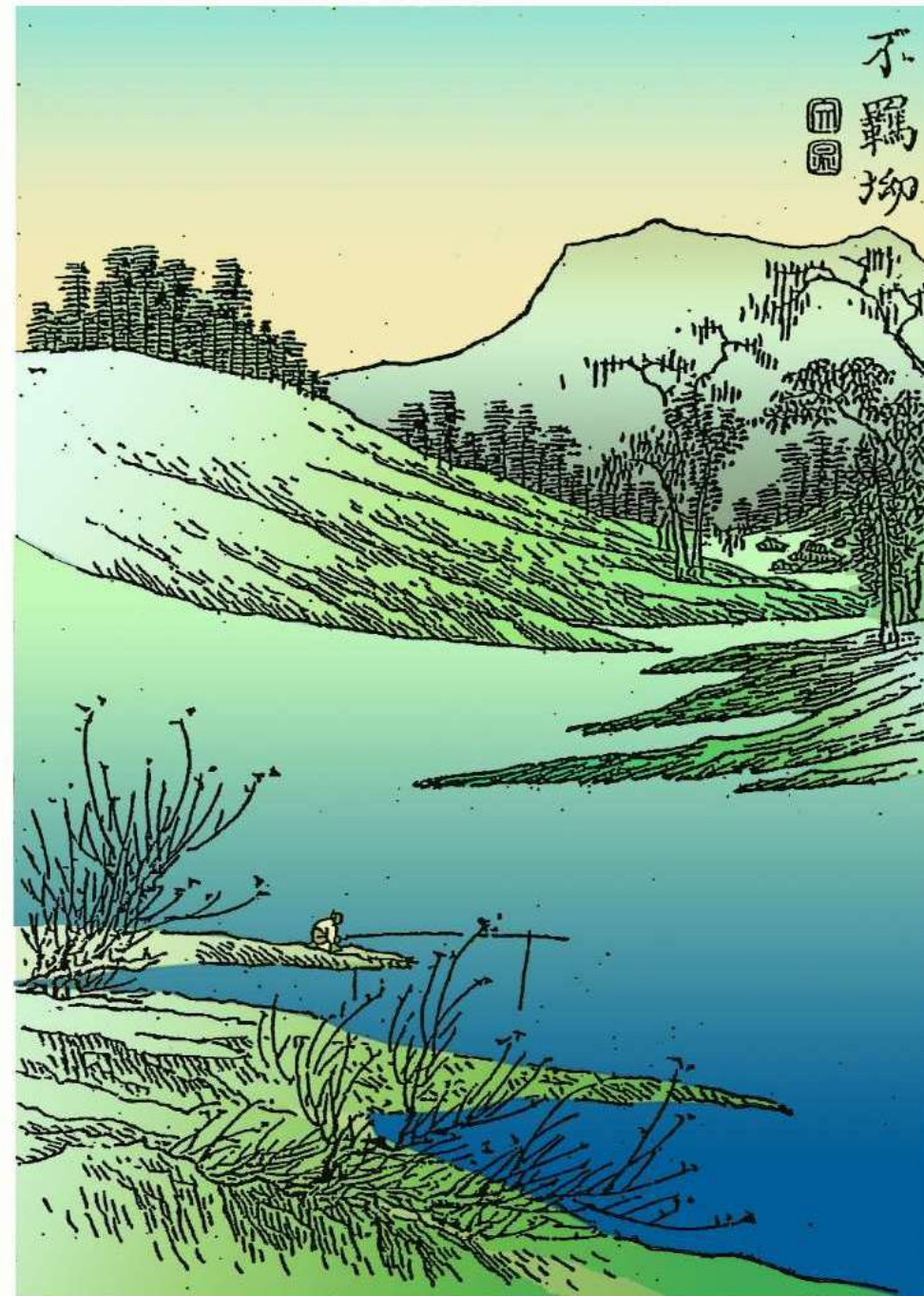
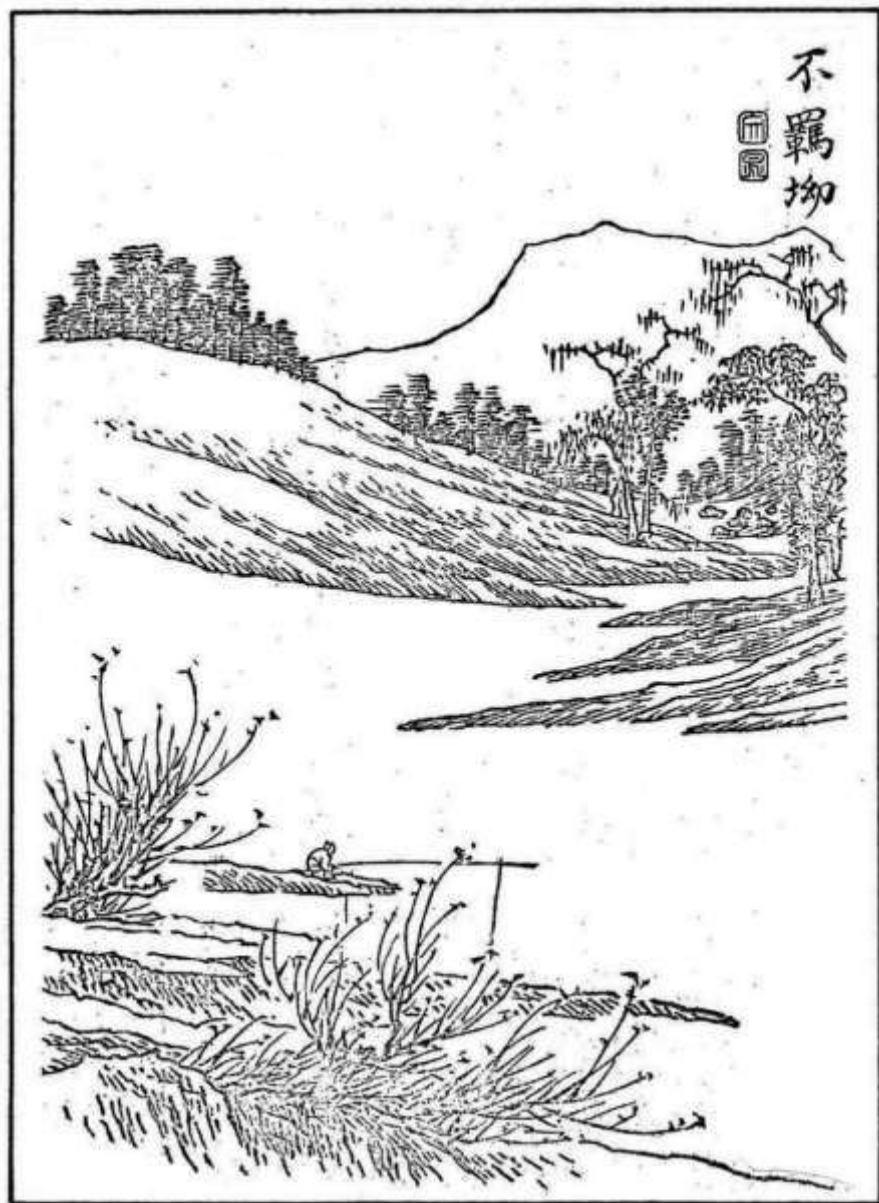
(5) 不羈坳



高子沼を見下ろして



○谷文晁の墨絵



東北芸術工科大学 小林敬一教授の彩色画

(6) 古樵丘

獨酌古樵丘 詩成自飄逸
醉看浮雲過 醒愛明月出

霸陵

古樵丘で、ひとり酒盃を酌む。

詩ができてか、俗事を離れのんきな気分になる。

酔いが来て、流れゆく浮き雲を眺め、

酔いが醒め、出ようとする明月を眺めるのも愛おしい。



高子二十境を楽しむ

- ◎高子二十境の漢詩を、景色を眺めながら鑑賞する。
- ◎谷文晁の墨絵を、高子の景観を眺望しながら鑑賞する。



詩歌、絵画などの創作力を高め、創造的に生きる楽しさ
高子二十境展の開催

- ◎ウォークの目的に対応できるコースが選べる。



健脚コース 歴史探訪コース 秋の味覚コースの楽しさ
秋のぶどう直売会の開催

高子二十境巡り[秋のぶどう収穫祭(9月)]



スタート・ゴールは高子沼



白雲洞でガイドの説明を



熊阪家墓所で

第6回 秋のぶどう収穫祭

高子二十境巡い

平成29年9月17日(日)

受付 9時～ 出発 9時30分

スタート・ゴール 高子沼

当日、高子沼の受け付けて自由に参加してください。(参加費300円・保険料等)

車の方は、高子集会所、阿武隈急行高子駅の臨時駐車場を利用してください。

高子の美味しいぶどうを直売します。

高子二十境スケッチ会のご案内

岡崎忠夫講師とともに、高子二十境の美しい風景をスケッチします。

第2回 7月22日(土) 9時～12時

◎夏 高子沼を描く

第3回 9月9日(土) 9時～12時

◎阿武隈急行「高子駅」から描く

第4回 11月11日(土) 9時～12時

◎秋 高子の紅葉を描く

※集合場所：高子集会所

参加費：1回1000円

申込先：事務局 担当佐藤 (024-576-6317)



高子二十境巡いにお出でください

ご清聴を感謝します

終わり